

平成28年度 見附市特別活動部 活動報告

部長 涌井 正敏

1 研究主題

地域の特色・環境を生かして、よりよい人間関係作りにつながる活動を考える。

2 研究の概要

見附市は、2004年に水害に見舞われ、今後の水害への備えとして手こぎボートであるEボートが導入された。見附市の大平森林公園では、Eボートの体験ができる。Eボートは、ウォータースポーツの初心者でも楽しめるボートとして誕生したが、「E」の文字には、**Enjoy**（楽しむ）の他に **Education**（教育）、**Emergency**（救急）、**Exchange**（交流）など様々な意味が込められており、それぞれの目的に合わせた活用ができる。

地域でできるこのEボートの体験をすることで、集団の一員としてよりよい人間の構築や特別活動にとどまらず総合的な学習の時間など様々な学習活動に生かす可能性を探る。

3 研究の実際

- (1) 日 時 平成28年10月6日（木）14：30～16：30
- (2) 会 場 見附市大平森林公園
- (3) 指導者 大平森林公園管理者 棚村さん Eボート指導員 犬塚さん
- (4) 参加者 市内特別活動部員 8名
- (5) 研修の概要

Eボートは、3つのパーツで作られているゴムボートである。まず、各パーツを膨らませ、座席を設置する活動と共に、3つのパーツに分かれている理由（どこか1つが破れても沈まない）やEの文字に込められている様々な意味について話を聞いた。

次に、実際に水面にEボートを浮かべ、船を操作する活動を行った。オールを使い、前進、後進、方向転換などの操作を行ううちに、自然と声を掛け合ったり、励まし合ったり楽しい雰囲気が生まれ、一体感を感じることができた。



4 成果と課題

みんなで協力しながら船を操作する活動は、子どもたちにはきっと難しいものである。しかし、どうすればうまく操作できるかを仲間同士で声を掛け合うことは、よりよい人間関係作りにつながられるはずである。また、見附市は、Eボートを災害への備えとして導入した経緯がある。そういった背景は、特別活動だけでなく地域学習や社会科、総合的な学習の時間にもつながられると感じた。今回の研修を通して、Eボートという学習材から様々な活動につながられる可能性を見付けることができた。